

ドイツ・オーストリアの伝統を引き継ぐ

ヨハネス・ブラームス

Johannes Brahms (1833–1897)

バッハ、ベートーヴェンと並んで「3B」のひとりに数えられるブラームスだが、交響曲というジャンルにはなかなか手を出さなかった。先達ベートーヴェンが音楽史上に打ち建てた金字塔ともいべき9つの交響曲のあと、どのように

その偉業を受け継いでゆけば良いのかは、大きく重い問いだったのだ。長い構想期間を経たのち、暗から明へという構造を踏襲しながら、ついにブラームスは《交響曲第1番》でその答えを形にしている。

C

2025

JANUARY

[第2029回]



クララへのバースデーカードに書かれた小さな歌は《交響曲第1番》の第4楽章でホルンが奏でる旋律の原型にイラストレーション: ©IKE

クララとブラームス

ローベルト・シューマンとクララ・シューマン夫妻の知己を得て、ブラームスは楽壇にデビューした。以来、夫妻とは親しく交流し、シューマンが早世してしまったのちは、クララやその子ども達を親身になって援助している。ブラームスのクララへの気持ちは、尊敬、敬慕、強い愛情、深い友情と、形を変えながら終生交流が続いた。